

平成28年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 平成29年2月13日（月）18:00～20:00

場 所 かでる2・7 510会議室

出席委員 松本会長 / 多田委員 / 藤井委員 / 富田委員 / 猪股委員 / 亀井委員 / 川島委員 / 山田委員 / 稲葉委員 / 内藤委員 / 五嶋委員

事務局 佐藤子ども未来推進局長 / 永沼子ども子育て支援課長 / 上田自立支援担当課長 ほか

議 事

[審議事項]

(1) 副会長の選出について

多田絵理子委員を副会長に選出

(2) 平成28年度子ども部会の審議結果審議結果及び知事への提言について

○富田委員から、資料1に基づき説明

○委員の主な発言（要旨）

- ・切れ目のない支援ということを強調するため「子どもが生まれてから」の言葉を入れた方が良い。
- ・都市部と過疎地では女性の働き方、環境も違う、その点も、もう少し整理した方が良い。
- ・中学生、高校生が、0、1、2歳、中学生以前の子どもを対象として、どのような形をとれば少子化を解消できるかということを考えるのは難しく、次年度以降の議論の作り方を考える必要がある。
- ・「若者に保育士体験の機会を作る」という手立てが出されているが、体験するという考えは良い。
- ・子ども自身が、楽しかったり、幸せだった時はどんな時だったかということも大事な観点。子ども自身から、子どもたちの身近なテーマで意見をもらえると、説得力が増すと思う。
- ・ファシリテーターの介入の仕方で、話題の展開が違うと思うので、導入の際に伝える情報の内容や方法を充実させてはどうか。

○事務局から発言（要旨）

- ・来年度以降どうするのかというご意見もいただきました。今いただいた意見を参考に、来年度以降については、若者が子どもとふれ合う機会を作るといった子どもたちの提言を実践する場を、子ども部会に作っていくなど、少し視点を変えて企画をさせていただきたいと思えます。

[報告事項]

(1) 北海道子どもの生活実態調査結果(速報版)について

○事務局から、資料2に基づき説明

○委員の主な発言(要旨)

- ・「世帯類型」として、母子・父子世帯が2割に近い数値。こうした人たちが地域の中で孤立している現状がある。相談支援など早急に孤立しないような施策の打ち出しが必要。
- ・子どもの調査内容として「自己肯定感」とあるが、子どもはわりと夢を持っているが親が前向きでない場合が多い。子どもの内に秘めた思いを今後の分析で検証してもらいたい。
- ・「悩みや困りごとを相談する相手」の回答結果については、子どもや保護者の悩みを相談する相手が「いる」「いない」の回答になっているが、具体的にどのような人に相談しているか分かれば、今後の支援を考える上で、参考になるのではないか。
- ・「日ごろ立ち話をするような付き合いのある人」の回答結果については、過去(平成5年)の調査と比較が可能な設問なので、こうした視点での分析も必要と考える。
- ・「情報を得るためによく参考としている媒体」の回答結果については、「学校などからのお便り」や「家族や友人」など、わりと身近にいる周囲の人を頼りにしているのではないか。
- ・「相談機関や相談員に子育てや生活のことで相談した経験」の回答結果については、児童相談所などの行政機関で低い結果と言えるのではないか。
- ・「相談機関や相談員に子育てや生活のことで相談した経験」の回答結果については、保健師が多く、スクールカウンセラーが少ない。スクールカウンセラーが少ないのは、どこにいるのか分からないからではないか。
- ・近頃フェイクニュースが多い。学校の先生に対する調査では2人に1人が貧困ではないかと言われている。しかしながら、この調査では、こうした状況が見えてこない。まじめに真実を答えているのか、自分たちが貧困だと感じてないか分からないが、果たして真実が見えてくる調査結果か疑問。
- ・回収率がとても高いと思われるが、支援が本当に必要な課題を抱えている人は、調査票を出せなかった、出さなかった人たち。こうした人たちの声が導き出されているか疑問。
- ・親になる前に、子どもと触れ合った経験のない人が増えていると感じているが、これから実施する乳幼児を持つ親を対象とした調査の調査項目に入れられないか。